

学ぶ
つくる
たのしむ

防災



目次

- 2P ▶ 支え合いまちづくりレポート
- 3P ▶ 私のまちのふくし「くりのみ園」
▶ 赤い羽根共同募金（安心・安全なまちづくり配分金）
- 4P ▶ 防災イベント「私の家の防災」
▶ 小布施見にマラソン De 広報活動
- 5P ▶ 出張なごみ会
▶ 障がい者希望の旅
- 6P ▶ 日本赤十字社講習会のお知らせ
▶ 各種寄贈のお礼
▶ 職員募集

一歩を踏み出しました！

小布施町生活支援体制整備事業

移動外出・
付き添い支援**えべさの会****7月29日 活動開始！**小布施町
支え合いまちづくり
レポート Vol.36

住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、“暮らしの足”となる移動外出支援と付き添い支援に焦点を当てた“支え合いの仕組みづくり”を、住民有志と行政、社協で一緒に取り組んできました。

話し合いを重ね、2年9か月の時を経て**えべさの会**が活動を開始しました。

**えべさの会の主な歩み**

令和4年10月、11月	●『小布施らしく みんなで支え合う移動・外出支援フォーラム』開催
令和5年1月～5月	●有志打ち合わせ会、須坂市旭ヶ丘地区たすけ合いの会視察研修
令和5年5月26日	●えべさの会結成
令和5年6月～令和6年7月	●えべさの会全体会・運営委員会で協議、テストイベント実施
令和6年7月29日	●えべさの会活動開始!!

**えべさの会の活動内容**

(町報8月号と一緒に配付された『えべさの会』チラシをご覧ください)



えべさの会は、“少し手伝ってもらえれば”お出かけができる方を対象に、買い物や通院、趣味の活動への付き添いなど“**移動＋移動に伴う生活のお手伝い**”をする、住民主体の有償ボランティア活動の団体です。

対象者	活動日・時間	料金等
●町内在住の65歳以上の高齢者 ●町内在住の障がい者 ●会が支援を必要と認める方	●平日の午前8時30分～午後5時 (特別な事情がある時は相談ください) ●予約は、1週間前までに	●30分ごとに300円 【年会費】 ●利用会員・協力員共に、年度ごと1,000円(令和6年度は500円)

【問合せ・申込み】

移動外出・付き添い支援 **えべさの会** 電話 **070-5595-1515** 平日の午前9時～11時



えべさの会協力会員 7月29日総会にて

活動開始日の7月29日に、えべさの会の協力会員17名(全20名)が出席し、“決起集会”となる総会と懇親会が行われました。会員からは「明日は我が身だから」「今、自分にできることをやる」という思いが伝えられ、大きくうなずく姿も見られました。

利用する側も支援する側も、“生きがい”と“つながりづくり”を目指し、えべさの会は一歩を踏み出しました。

これからも行政、社協は伴走をしていきます。

ご紹介!

私のまちのふくし

小布施町の社会福祉に関する団体・法人等の活動や取り組みを紹介します。
第1弾は社会福祉法人くりのみ園さんです。

社会福祉法人 くりのみ園

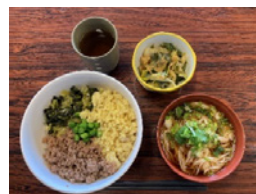
(町認定農業者)

ノウフク

いのちは、めぐる。
「オーガニック福祉農園」で、
自立と暮らしを支えます。



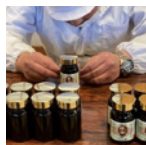
くりのみ園は、障がいを持つ人たちの福祉農園です。平飼いで土の上を駆け回る 2,300 羽のニワトリさんたち、そして障がいをもつ人たちと共に、先人が切り拓いてきた延徳田んぼ 5 ヘクタールの田園を守り、地域農業のインフラとして次世代に大切な農地をリレーしていきます。



自分たちで育てた米、野菜、卵を毎日の昼食で食べています。徒歩 5 分の場所にグループホームも整備されていて、地域社会の中で一人ひとりの自己実現を目指す支援をしています。私たちと一緒に農業に取り組んでみませんか。

主な活動

- 平飼い養鶏による自然卵
- 自然循環農法による米、野菜の栽培
(小布施丸なす、雪下にんじん等)
- 農産物の生産・加工
(マフィン、シフォンケーキ、カステラ、卵油等)
- 店頭での販売による 6 次産業化



Check!

くりのみ園 収穫祭

11月9日(土)

午前 9 時 30 分～

自然卵・有機野菜・新米を販売
その他、イベントを企画

みなさんのお越しをお待ちしています

【お問い合わせ】社会福祉法人くりのみ園 電話：026-213-6277 住所：小布施町大字都住 1238-2

赤い羽根共同募金

身近な地域の 災害の備えになりました



昨年度、赤い羽根共同募金の安心・安全なまちづくり配分金に申請された栗ガ丘、北岡、押羽、羽場自治会に助成金が配分され、発電機が整備されました。



安心・安全なまちづくり配分金とは…

赤い羽根共同募金や災害等準備金を財源に、地域住民を対象として行う防災・防犯に係る啓発活動や訓練、物品の整備に活用される配分金（申請制）。
➡ 今年度は、災害等準備金を能登半島地震災害に拠出したため「過去に配分のない団体のみ」が申請対象になりますのでご了承ください。

私の家の防災

防災イベント開催

6月8日

～家庭でできる非常食クッキング
&
非常用持ち出し袋の中身を考える～

学ぼう！



普段の生活の中で防災・減災への意識を高め、災害を身近なこととしてとらえ、自助を意識する機会として防災イベントを開催しました。日本赤十字社長野県支部の堀込明紀さんを講師に大人から子どもまで 11 名の方が参加されました。



包装食袋を使って
「炊き込みご飯」「ポトフ」「蒸しパン」作りに挑戦



おいしくできた！

非常食クッキングでは堀込さんから湯せん調理のポイントなどを説明していただき、グループごとに協力して進めることができました。包装食袋をお鍋でゆでている間、能登半島地震の様子を聞いたり、自分自身が実際に非常時に何を持ち出し袋に入れるかを考えました。



持ち出しの袋の
大きさは限ら
れているよ

最後にできあがった非常食を参加者のみなさんでおいしくいただきました。今回は幅広い年代の方々が参加され「いざという時に役に立つ内容だった」「子どもと参加できて楽しかった。家で話し合えるきっかけになった」などの感想を聞くことができました。

次の防災イベントもお楽しみに！

小布施見にマラソン

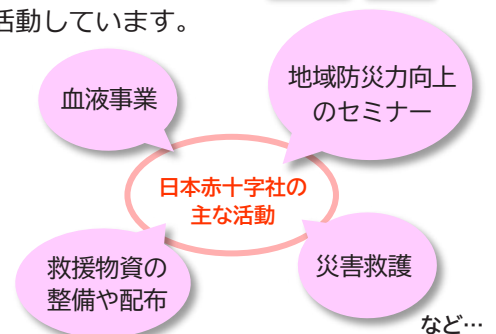
De 広報活動！



日本赤十字社の活動って意外と知らない…

日本赤十字社では国内外における災害救護をはじめ、苦しむ人を救うために幅広い分野で活動しています。

そんな日本赤十字社の活動について一人でも多くの方に知ってもらおうと、7月13日のゼッケン配布会場、7月14日のマラソンゴール付近で日本赤十字社ブースを設置し、広報活動を行いました。



災害時の活動について、石川県から参加されたランナーからは「地震のとき日赤の活動が本当にありがたかった」とのお声がありました。

広報ブース

- ▶日本赤十字社の行う9つの事業の紹介パネル
- ▶能登半島地震災害での日本赤十字社の活動についての報告パネル
- ▶被災地に配布される救援物資の実物を展示
- ▶活動資金へのご協力への声かけ

ケアブース（14日のみ）

- ▶被災地で活躍する“柔道整復師会日本赤十字奉仕団”の柔道整復師が参加
- ▶足がつったり肉離れなどで医療的ケアが必要になったランナーへのケアやアドバイス

みんなで交流！ ボッチャと昼食交流会

～ ひとり暮らし高齢者交流会 ～

出張
なごみ会

今回は町内の各地域に出張し、7 会場で 48 名のみなさんに参加していただきました。



ボッチャ対抗戦ではボッチャ初体験の方も。「できるかな…」と不安がある中「だいじょうぶ！がんばって！」とチームで声をかけ合い、ボッチャを通して交流を深め楽しくできました。

その後は久しぶりとなる昼食交流会を行い「誰かと食べるのはいいね」「1人でいるとすぐに頼れる人がいないので常に不安がある」「人と話さないと言葉を忘れそう」等の話にうなずきも多く、思いを共感される光景もありました。

参加者の声（感想）

「1 人だと参加しにくいかな…と思って参加を迷ったけど、来てみたら楽しかった。知り合いもできた」

「道で会ったら挨拶するね。でも顔を忘れちゃってるかもしれないから遠慮せずに声かけて」

新たな出会いと
つながりも
できました



静岡県防災&体験ツアー 障がい者希望の旅（7月3日～4日）

社協では、日頃遠方へ外出しにくい障がい者とその家族を対象に、泊りがけの旅行《希望の旅》と、日帰り旅行《ふれあい小さな旅》を、それぞれ年 1 回ずつ開催しています。（障害児・者福祉活動事業）

旅の企画段階から大切にしているのは、“参加者同士の交流と一体感”そして“暮らしに活かせる学び”を得られる旅行にしたいということ。今回は、元旦に起きた能登半島地震を教訓に「明日起きるかもしれない巨大地震や災害に対する心構えを考える機会に」と、静岡県地震防災センターの訪問を取り入れました。



『ふじのくに茶の都ミュージアム』では、お茶席も体験

令和 2 年にリニューアルされたセンターの“地震体験コーナー”では、震度 6 を体験。激しい縦横の揺れと、家具が飛び交う映像に思わず悲鳴が上がリ、「突然の地震にどう対処したらいいのだろう」「掴まるところがなければ、とても立っていらなかった」との感想も出されました。また、災害時に自分と家族を守るための日頃の備えについて、インストラクターの解説に耳を傾け、熱心に展示パネルを読む姿が見られました。

今回は障がいがある方とそのご家族 17 名、ボランティア 3 名が参加されました。笑顔の交流と思い出たくさん 2 日間となりました。

～身近な人を救うために～

お知らせ

日本赤十字社（長野県支部）
講習会の紹介

日本赤十字社は、身近な人を救うため、とっさの手当てや日常生活での事故防止など、健康安全に関する知識・技術の普及と啓発を行います。

各種講習	主な内容
救急法	日常生活における事故防止や手当て（AEDの使い方、止血の仕方など）の基本、災害時の心得など
水上安全法	水と親しみ、水の事故から人命を守るため、泳ぎの基本と救助、応急手当の方法など
健康生活支援講習	高齢期を健やかに生きるための健康増進の知識や高齢者の支援と自立に向けた生活の仕方や工夫など
幼児安全法	子どもを大切に育てるために、乳幼児期に起こりやすい事故の予防とその手当てなど
防災セミナー	いざという時のために、家庭や地域においての防災意識向上と防災知識を学ぶ（体験型セミナーなど）

【申し込み方法】

→ 個人で受講される方

日本赤十字社長野県支部ホームページで日程等を確認のうえ、各会場に申込み

→ 講習会を開催したい地域や企業・学校・団体等

日本赤十字社長野県支部（026-219-2563）または町社協（026-242-6665）へ連絡する



各種寄贈のお礼



みなさまのあたたかいご支援に感謝いたします。主に介護サービスの事業で活用させていただきます。ありがとうございました。

【笹】…玄照寺さまより

【しょうぶ】…地域のみなさま、利用者さまより

【血圧計・浴槽台・すべり止めマット】…依田夏雄さま（松村）より

短冊に願いを込めた飾りつけができました



小布施町社協

職員募集



子育て世代を含め、幅広い年代のスタッフが活躍しています！

資格を活かして、私たちと一緒に

福祉の仕事をしてみませんか



職種	勤務場所	勤務日
ケアマネジャー（正職）1名	居宅介護支援事業所	週5
訪問介護員（パート）1名	訪問介護事業所	週4
看護師（パート）若干名	町デイサービスセンター または 介護員（パート）若干名	週3～5

※ 処遇等は就業規則、給与規定によります

募集要項等、詳細は町社協ホームページ“採用情報”に記載



発行者	社会福祉法人 小布施町社会福祉協議会（小布施町健康福祉センター内）		
E-mail	o-shakyo@stvnnet.home.ne.jp	T E L	026-242-6665
U R L	http://obuse-shakyo.org/	F A X	026-242-6696



社協報“福ちゃん”は共同募金の配分金で発行されています